

NO.9

ヤマモモ

(ヤマモモ科)

ヤマモモは「桃」の名前が付いていますが、モモ（バラ科）のなかまではありません。6月下旬から7月上旬ごろ、直径1～2 cmの実が赤紫色に熟し、食べると甘酸っぱくおいしいことから、山の木になるモモの意味で名付けられたと思われます。実は生で食べるほか、ジャムや果実酒に使われます。なお、ケーキなどに使われているヤマモモの大きな実は、改良された栽培品種であることが多いようです。

ヤマモモは雄の木と雌の木が分かれており（雌雄異種）、実は雌の木にしかつきません。雄花は長さ2～4 cm、雌花は約1 cmで、4月ごろ咲きます。

暖地の山地に生える、高さ25 mほどになる常緑高木で、日本海側は福井県以西、太平洋側は房総半島以西に自生しています。また、朝鮮半島、中国、台湾、フィリピンとその分布は広がっています。県内では里山や海岸近くに多く見られ、稀に直径が1 m近い大木も残っています。公園の修景木や庭木、街路樹としてもよく植えられているので、お目にかかる機会の多い木です。

樹皮はタンニンなどの成分を多く含んでおり、古くから薬用や染料として使われてきました。生薬名は楊梅皮（ようばいひ）で、打撲傷やねんざなどの薬に利用されます。



▲ ヤマモモの実



▲ ヤマモモの葉



▲ ヤマモモの葉：上葉表、下葉裏



▲ ヤマモモの若い葉：若い葉はかなり異なった形をすることがある